



福島県

佐野 久美子さん(南津島)

取材者：認定特定非営利活動法人市民公益活動パートナーズ 古山・松田
取材日：令和2年12月9日憧れていたトルコギキョウに挑戦。
大玉村で頑張っています

取材の当日は快晴。美しい大玉村の景色を眺めながら、佐野さんのご自宅を訪ねました。玄関には手作りのプリザーブドフラワーが飾られ、いかにも花を作る方のお家とお見受けしました。

ふるさと津島の料理も大好きという佐野さんがお茶請けに供してくださった美味しい白菜漬け。ごんぼっ葉の凍み餅で作ったじゅうねん餅も、本当にごちそうさまでした。



▲ご自宅の玄関前にて。安達太良連峰の山並みと広々とした田畑の景色が「南津島を思い起こさせる」とおっしゃる佐野さん

◆ご自宅の玄関前にて。安達太良連峰の山並みと広々とした田畑の景色が「南津島を思い起こさせる」とおっしゃる佐野さん

▲ご自宅の玄関前にて。安達太良連峰の山並みと広々とした田畑の景色が「南津島を思い起こさせる」とおっしゃる佐野さん

◆ご自宅の玄関前にて。安達太良連峰の山並みと広々とした田畑の景色が「南津島を思い起こさせる」とおっしゃる佐野さん

▲ご自宅の玄関前にて。安達太良連峰の山並みと広々とした田畑の景色が「南津島を思い起こさせる」とおっしゃる佐野さん

◆ふるさと津島への複雑な思い
夫は定年後に南津島へ帰りたいようですが、私は病気もあるし、ここに馴染んでいるのであまり考えないようにしています。けれども、原発事故さえなければ離れることのなかった懐かしいふるさとへの思いは募るばかりです。それに、町の幹線道路や帰還困難区域の一部の除染などの話は聞こえてくるのですが、我が家周辺の状況はあまり分かりません。町に申し上げたいことは、除染をせずに解除しないで欲しいんです。

話は変わりますが、大玉村や本宮市などに住む人たちの手づくりの会「りんどうの会」での出会いは私の支えになっています。避難することがなかったら、きっと浪江地区の人たちとは知り合うこともなかったでしょう。大きな収穫、財産だと思っています。



▲8月初め、丹精を込めたトルコギキョウの傍らで。今年はセレブホワイトなど白い花の人气が高かったそうです

浪江の
ころ通信

・第115号・

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、町内全域に出されていた避難指示は、平成29年3月31日に「帰還困難区域」を除き解除されましたが、多くの浪江町民は福島県内外に分散して避難生活を続けています。町を取り巻く状況が徐々に変化する中で、町民の皆さんがどのような思いで生活し、ふるさとへの思いを抱いているのか。

“浪江のころプロジェクト”は、町民の皆さんの声を「浪江のころ通信(※1)」を通して届け、皆さんの思いや暮らしぶりを発信・共有しようとするものです。

一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム(※2)が中心となり、全国各地のNPO、大学などの皆さんが取材を進め、浪江町と連携し「浪江のころ通信」を編集・発行しています。

※1 浪江のころ通信は、町民の皆さんがお話しした「ころ」を伝えることを大切にするため、取材者が聞き取ったままとした原稿をほぼ原文のまま掲載しています。

※2 一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアムは、大学、NPO、企業、経済団体、行政などが連携したコミュニティ支援ネットワーク。仙台が本拠地。

「浪江のころ通信／第115号」への
感想をお寄せください。

【連絡先】〒979-1592
浪江町大字幾世橋字六反田7番地2
「浪江のころ通信」宛て
FAX 0240 (34) 4593

